

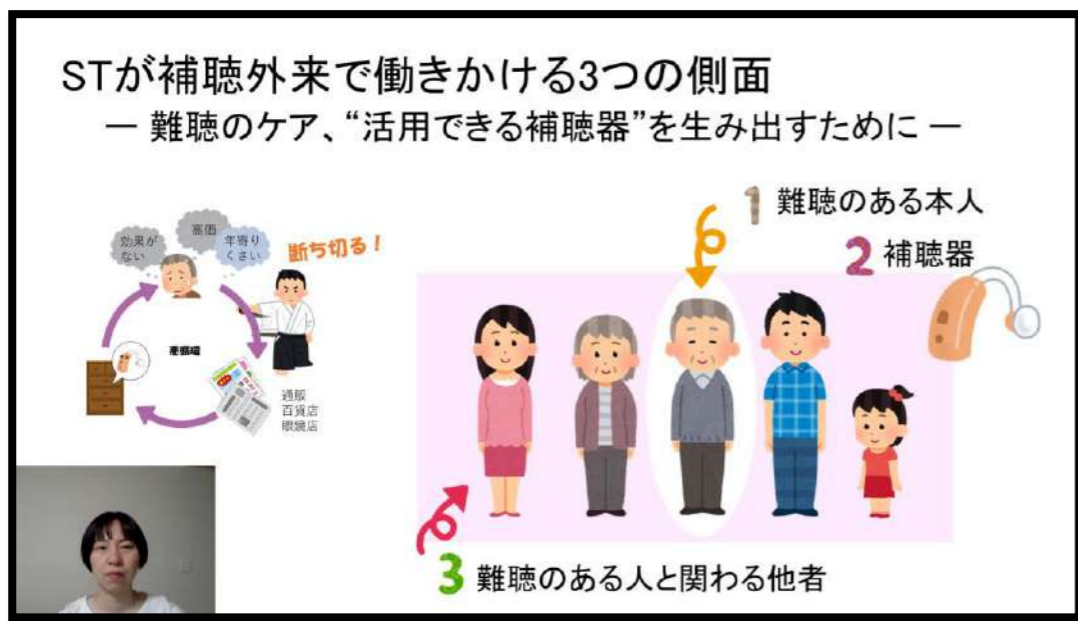
2024年度が始まりました。皆さん、お気づきかもしれませんが、オギジビの言語聴覚士(ST)が1人増え、3人体制になりました。詳しくは今後、自己紹介をしてもらおうと思っています。4月号はSTの活動報告です。

## 高齢期難聴



3月に「高齢期難聴」をテーマとした講演を2つ行いました。どちらもSTだけでなく、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、ソーシャルワーカー、栄養士、保健師など様々な専門職が対象でした。

1つめは3/2(土)・3(日)にオンラインで開催された、**第25回日本リハビリテーション連携科学学会**です。大会のテーマは「地域に根ざした多職種連携」でした。その中の「高齢期のアクセシビリティとエンパワーメント」というシンポジウムで「高齢期の補聴支援の現状と提言」についてお話ししました。内容を少しご紹介いたします。



当日は事前録画した映像を流しました

超高齢社会の日本では健康寿命延伸のため、早めの「難聴ケア」が推奨されています。しかしその手段のひとつである補聴器を活用している人は多くありません。

左はSTが補聴外来で行うことを示した発表スライドの1枚です。まず補聴器を試聴される方それぞれの聞こえや生活環境に合わせて**補聴器**を調整します。**難聴のある本人**が「聴力変動が無いか定期的に検査・診察を受ける」「補聴器の保守管理を行い不具合に気づく」

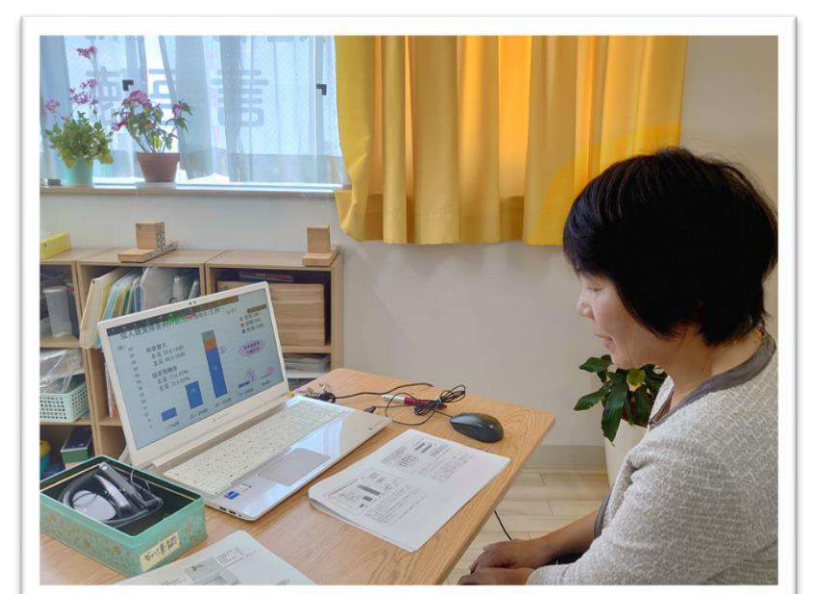
「補聴器の装着・ボリューム調整などの方法を習得し日常生活で活用する」「補聴器だけでは解決できない聞こえの問題を理解し、聴取しやすい環境を自分で作る」等を行えるよう練習をします。また聞こえにくさがある人と話すときは、周囲の雑音を減らし、距離や方向を考慮した上でゆっくりはっきり話すことを心がける等の聴取しやすい環境作りは、難聴のある本人だけでなく**難聴のある人と関わる他者**の理解も促します。“補聴器の活用”のためにはこれらのことが必要であるというお話をしました。

2つめは3/17(日)にこちらもオンラインで開催された『**高齢期の難聴の支援**』ための**研修会**です。主催は神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会・神奈川県言語聴覚士会で、神奈川県医師会在宅医療トレーニングセンターが共催でした。

はじめに耳の構造や機能などの基礎的内容と高齢期難聴の特性、高齢期に想定される難聴の影響についてお話ししました。次に、参加登録時に「補聴器は価格によって性能が変わるのか?」「感音性難聴の人にも補聴器は有効なのか?」「いつから補聴器を装用すればよいのか?」といった質問をいただいていたので、オギジビの補聴外来の流れにその回答を含めつつ、難聴のある方へのSTの関わりを具体的にお話ししました。

終了後アンケートでは「難聴に対する研修を今後も希望する」という声を多くいただきました。超高齢社会の日本、難聴は社会全体で取り組んでいく課題であると実感しました。

ST室1から発信しました



## クロモジ



ST室1では、開院祝いに頂いたアレンジメントに入っていたミリオンバンブーを育てていました。天井に届くかというくらいぐんぐん生長していたのですが、残念ながらある時から黄色く、一部は黒くなってしまいました。ミリオンバンブーは「ラッキーバンブー」「万年竹」「開運竹」「富貴竹」「億万長者の竹」「長寿の竹」など数多くの別名を持っているようです。そんな縁起の良い植物が枯れてしまうとは…。そこで新たに登場したのが、「クロモジ」です。

私はクロモジという植物を最近まで知らなかったのですが、先日食事をしたお店に「クロモジのジェラート」というメニューがありました。お店の方にクロモジとは何かと尋ねたところ、和菓子に添えられている楊枝の原料であると教えてくれました。珍しいと思い注文しましたが、とても良い香りがする美味しいジェラートでした。クロモジについて調べてみると'クスノキ科の落葉低木で、爽やかな柑橘系の香りをもつ木'、'福がくる縁起がよい木'とのことでした。本州以南の標高千メートル程度の山の斜面に、スギやヒノキの小草として自生するようなので、まあなかなか見る機会は無いだろうなと思っていました。ところが偶然通りがかった花屋の店先のバケツに「クロモジ」と書か

れているのを発見し、これは！と思い買って帰りました。切枝なので生長は限られると思いますが、花が咲くかな？と期待しています



購入後、1カ月程度経ちましたが、あまり変化が見られません。

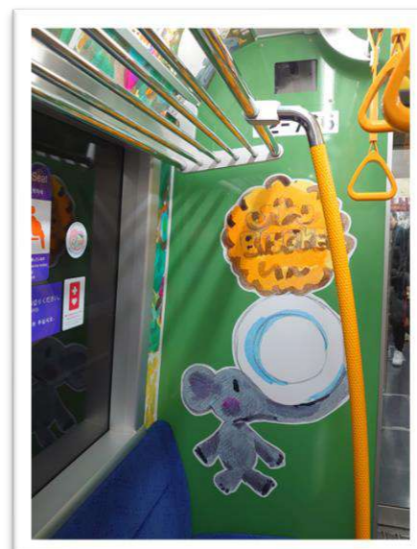
ヒヤシンスといえば水栽培のイメージですが、こちらは鉢植えのヒヤシンス。紫・ピンク・白のきれいな花を咲かせました。



## ぐるんぱ発見



先日都営大江戸線に乗ったら、ぐるんぱがいました。東京都交通局が“小さなお子様連れのお客様にも安心して気兼ねなく電車を利用していただける”ことを目的に設置した「子育て応援スペース」で、大江戸線その他、浅草線、三田線、新宿線でも運行されているようです。知らなかっただけで、数年前からの取り組みだそうです。誰もいなかったもので、ひとりでバシャバシャたくさん写真を撮らせてもらいました。



私だったらだるまちゃんがいたら嬉しいな、でもからすのパンやさんの方がいちごパンとか、きょうりゅうパンとかひこうきパンとかいろんなパンがあって子どもは楽しめるのかな？などと思って調べたら、「だるまちゃん」と「てんぐちゃん」「だるまちゃんとかみなりちゃん」の車両があるようです。ただ、すべての電車にこのスペースがあるわけではなく、設置されている電車で8～10両編成のうち2カ所だけであり、様々な人が「共存」ではなく「分断」になってしまうことはないのかなという気持ちも抱きました。わたしは偶然来た電車、偶然乗り込んだ車両が「子育て応援スペース」でぐるんぱに遭遇することができ、運が良かったのですが、狙って乗りたい場合は「都営交通アプリ」で検索もできるようです。